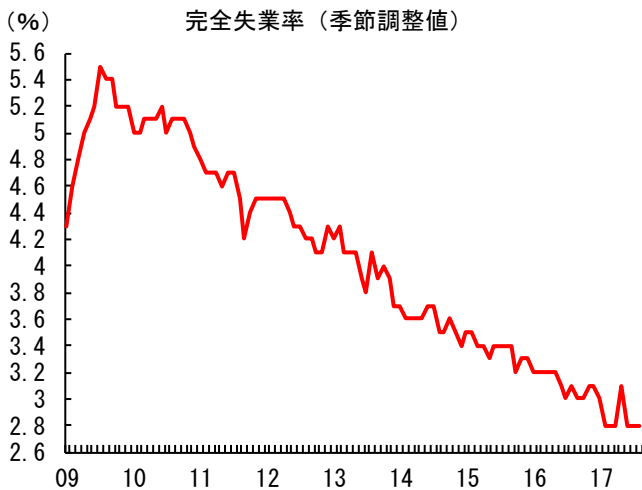


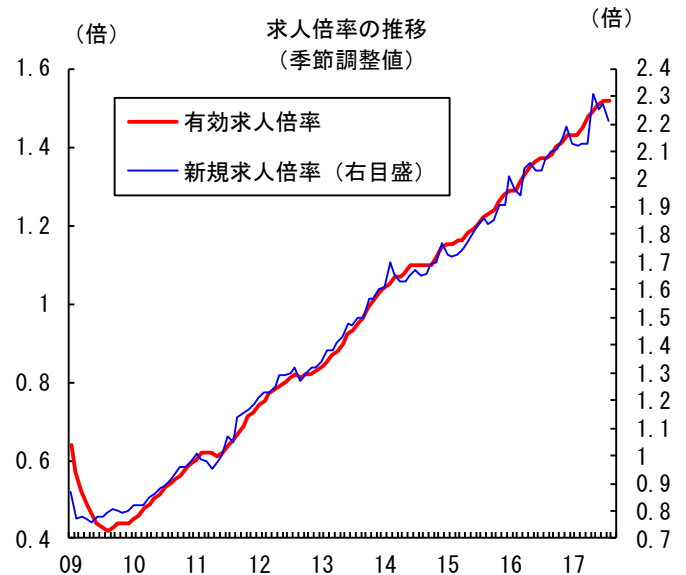
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2017年8月） 発表日：2017年9月29日（金）
 ～定着しつつある2%台の失業率～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

○定着しつつある2%台の失業率

総務省から発表された2017年8月の完全失業率は2.8%と、市場予想に一致した。これで3ヶ月連続で2.8%、17年に入ってから8ヶ月のうち6ヶ月で2%台となっており、2%の失業率が定着しつつある。2.8%という水準は、バブル初期の1987年や、バブル崩壊後に失業率が上昇を始めて間もない1994年とほぼ同じであり、労働需給が非常に引き締まった状態にあることが確認できる結果である。また、今月は労働参加率が前月から上昇するなかで失業率が横ばいを維持しており、見た目以上に内容も良好といえる。

実際、季節調整済みの就業者数は前月差+20万人（7月+14万人）と、3ヶ月連続で二桁の増加。雇用者数も前月差+4万人と、6月の+32万人、7月の+20万人の高い伸びの後にもかかわらずプラスを維持している。引き続き雇用は着実な増加傾向にあると判断できる。

こうした雇用の増加を牽引しているのは引き続き女性であり、8月の女性就業者数は前年比+2.0%の高い伸びとなっている。また今回の雇用回復局面における女性雇用の特徴として、労働参加率が大幅に上昇していることが挙げられる。女性の労働参加率は、12年末の48.2%から、17年8月には51.5%にまで上昇している（季節調整値）。雇用環境の改善を受けて、女性の労働市場参入の動きが強まっていることが確認できる。

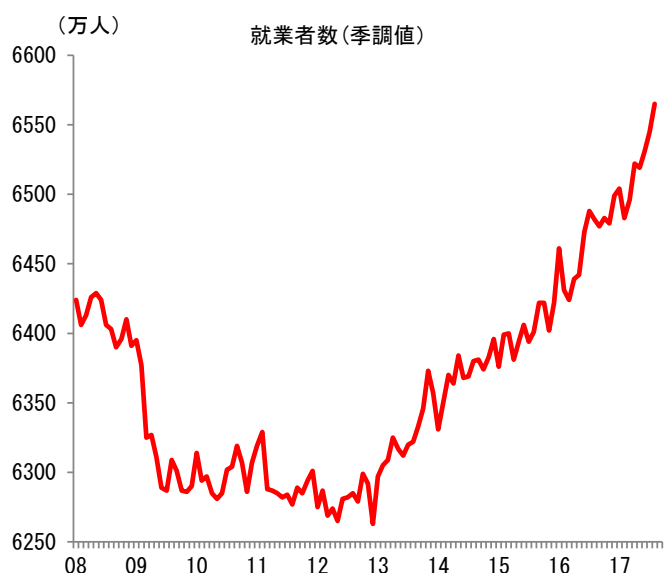
○企業の求人意欲は非常に旺盛

厚生労働省から公表された17年8月の有効求人倍率は1.52倍と、前月と同水準となった。バブル期のピークである90年7月の1.46倍を5ヶ月連続で上回り、1974年2月（1.53倍）以来の高水準となっている。労働需給が非常に引き締まっていることを示す結果といえる。

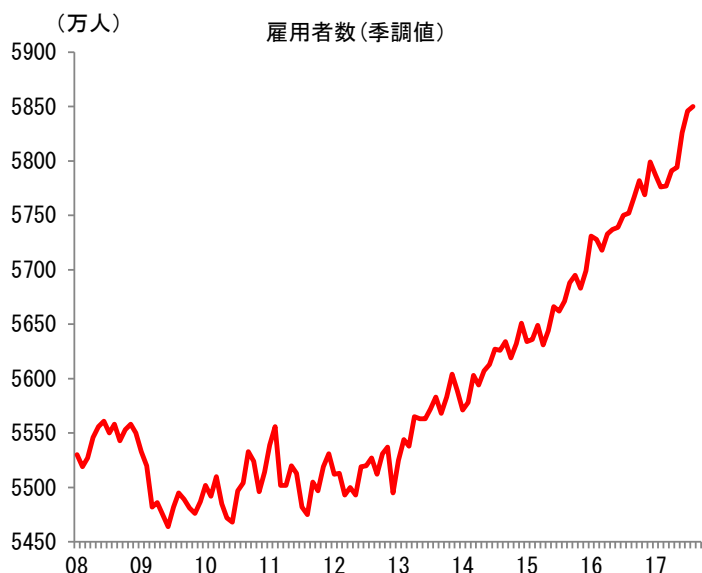
一方、新規求人倍率は2.21倍と、前月（2.27倍）から0.06ポイントの低下となった。ただこれは、新規求職申込件数が前月比+5.8%と大幅に増加したことによって攪乱されている面が大きく、企業の求人意欲に変

化が出ているわけではない。新規求職申込件数は5月以降振れが非常に大きく、季節調整が上手くかかっていないものと思われる。

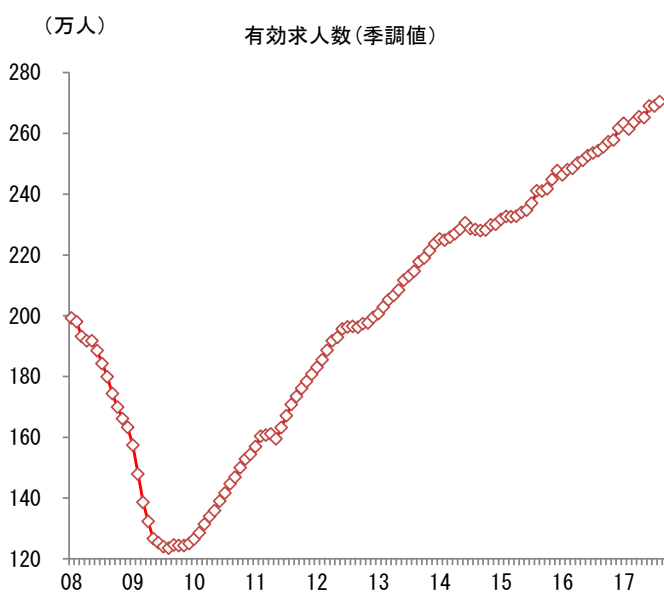
実際、有効求人数は前月比+0.5%、新規求人数は前月比+2.9%と好調さを維持している。引き続き、求人は明確な増加傾向にあり、企業の求人意欲が旺盛であることが確認できる。雇用者数の動きに先行する求人数が改善傾向を続けていることからみて、先行きも雇用情勢は堅調さを持続するとみられる。失業率も2%台での推移が続く可能性が高いだろう。



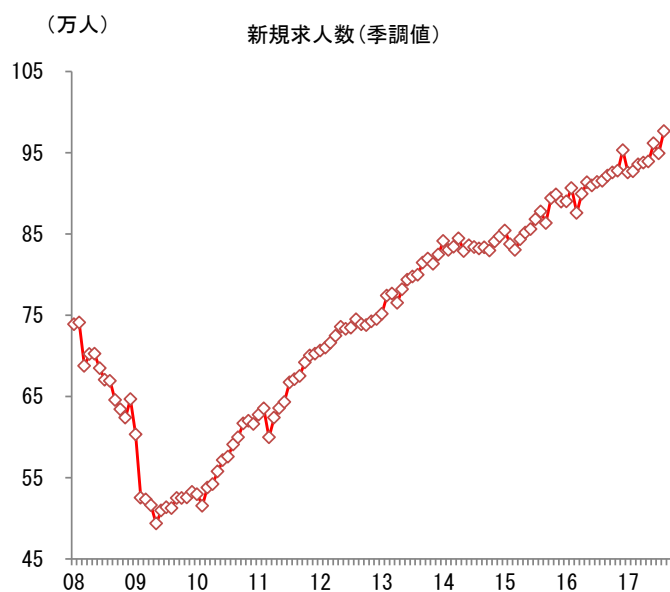
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」